

# 令和4年 第4回定例会 一般質問内容一覧

日時 12月1日(木) 午前9時30分～ (質問順 1番から4番まで)  
 場所 新宮町役場 3階 議事堂

質問順	氏名	質問事項	具体的質問内容	答弁者
1番	横大路 政之 議員	1) 教育長の所信について	<p>教育長着任から2か月が経過したが、新宮町の教育行政の現状における特性や課題についてどのように受け止めているのか。また、今後どのように進めていきたいと考えているのか所信を伺う。</p> <p>①教育委員会の活性化について                      社会現象として教育委員会の形骸化を指摘する意見があるが、新宮町教育委員会の現状分析と今後の運営方針について伺う。                      ②学校教育の課題克服について                      全国的に学校教育の現場では、いじめや不登校・教職員の長時間勤務など様々な課題が浮き彫りとなっているが、町の取組の現状と今後の方針について見解を伺う。                      ③社会教育の充実について                      世代、性別を問わず多くの町民にかかわりがある社会教育の充実は教育行政にとって欠かせないものであると考えるが、町の取組の現状と今後の方針について見解を伺う。</p>	教育長
2番	温水 眞 議員	1) 高齢者福祉施策を問う	<p>日本の健康寿命は、直近の20年で3歳延びたが、不健康期間は、20年前と比較してもさほど変わらない。福岡県の後期高齢者の一人当たりの医療費は、全国で一番高く、本町も全国平均の約1.2倍となっている。                      国は「健康寿命延伸プラン」を打ち出し、2040年度までに2016年度比で健康寿命を3歳以上延ばすことを目標にしている。そこで次のことを伺う。</p> <p>1 介護予防の為に、特定健診の受診率向上が重要と考えている。高齢者数を65歳～74歳、75歳～84歳、85歳以上の3つに区切り、区分ごとで、令和3年度の受診率、要介護・要支援の出現率を伺う。また、令和4年度の受診率目標を45%に設定しているが、目標達成のための具体策は。                      2 町が助成を行っている地域介護予防活動は公民館など身近な場所で行われており、参加しやすく高齢者の健康づくりには大変効果的であると考えている。令和4年度、地域介護予防活動を実施している団体と、実施内容を伺う。今後、より多くの団体が地域介護予防活動を実施し、充実させていくためには、助成内容のさらなる周知や町が行っている様々な介護予防事業との連携が必要であると考えているが見解は。                      3 シニアクラブ連合会は、町の助成もあり、様々な活動を行っている。シニアクラブ連合会の活動と町が行っている介護予防事業の連携をより深めることで、高齢者の健康増進にますますつながると考えるが見解は。</p>	町長
3番	安武 久美子 議員	1) 保護者の「おむつ持ち帰り」をなくすには	<p>コロナ禍で少子化・人口減少が一層進み、2021年の出生数が過去最少を記録するなど、想定よりも早く少子化が進んでいるとの報道がある。安心して子どもを産み育てられるように、子育て世代の負担軽減を図る必要があると考える。                      町内の保育所では、お迎え時に使用済みおむつを持ち帰っている。保護者から、荷物が多い上、臭いがする為、帰りに病院や買い物などに行けず苦労しているとの話を聞く。                      保護者の負担軽減、保育士の負担軽減、感染症対策も含め衛生的ではないことから、使用済みのおむつは保育所で回収し廃棄することが望ましいと考える。そこで次の2点について伺う。</p> <p>1 町の保育所の現状と改善要望など聞き取りは行っているか。                      2 廃棄にかかる費用を町が補助することで保育所の負担も軽減されると思うが考えは。</p>	町長
		2) 「子ども施設」として児童館の開設を	<p>75年前に制定された児童福祉法の改正に伴い、2018年に「児童館ガイドライン」が改正された。理念に子どもの意見が尊重されるべきこと、子どもの最善の利益が優先されること等が明文化されている。また児童虐待の通告件数やいじめの発生件数の増加、子どもの貧困の社会問題化、配慮や支援が必要な子どもの存在等、子どもと家庭をめぐる様々な課題に対応できるよう児童館の機能の強化が期待されている。                      児童館は0歳から17歳までの児童が自由に利用し遊びを通じた健全育成を支援する場所である。子どもにとっては、自分の意志で行くことができ、相談や異年齢の子どもと触れ合えるとても重要な「居場所」として確保すべきであると考えている。                      現在、新宮町には児童館が無いが、設置する考えはあるのか伺う。</p>	町長
4番	大牟田 直人 議員	1) 「防災」をキーワードに地域のつながりづくりを	<p>地域の防災力を高めるためには自助、共助、公助の連携が不可欠であり、普段からの地域のつながりが大切である。また、地域のつながりは防災だけでなく、協働のまちづくりにも不可欠だと感じる。                      町では自主防災組織の設立が進み、令和元年度には、CS新宮東中学校がぼうさい甲子園で「だいじょうぶ賞」を、新宮中学校相島分校相島少年消防クラブ(BFC)がボランティア・スピリット・アワードで「SPIRIT OF COMMUNITY 奨励賞」を受賞、今年度は新宮町消防団(第4分団)が第29回全国消防操法大会で全国優勝するなど、町民の防災に関する関心が高まっており、今こそ「防災」をキーワードにした地域のつながりづくりを行う絶好のタイミングだと感じる。そこで次のことを伺う。</p> <p>1 平成29年6月議会での一般質問において、近隣自治体で実施しているような校区ごとに自宅から避難所へ集まる実地型の防災訓練を行えないかとの質問を行った。町長から、検討すべきと思うとの回答であった。地域の方がともに収容避難所である小学校に集まる訓練を行うと、防災意識の高まりや地域のつながりづくりになると思うが、現在の検討状況は。                      2 防災意識を高めることを目的に防災フェアや防災フェスなどを行っている自治体がある。町でも2019年にふれあいの丘公園で防災訓練が実施された。防災フェスや防災訓練を行うことが、防災意識を高め、地域のつながりづくりになると感じるが今後の計画は。                      3 2022年8月版のハザードマップは、マイタイムラインが作成できるようになっている。マイタイムライン作成により、災害時の備えにつながると感じる。しかしながら一人での作成は少し難しいと考える。防災フェスなどで学びながら作成する機会があればマイタイムラインの活用と地域のつながりづくりになると感じるが、実施できないか。                      4 防災フェスなどで町内の小中学校で行っている防災活動を発表する場があれば、町民の防災意識の高まりにつながり、小中学生の学習の場、町民と小中学生のつながりの場になると考えるが実施できないか。</p>	町長 教育長

※質問事項、具体的質問内容については、原文のまま記載しています。

※役場、シーオーレ新宮、そびあしんぐらうにおいて、議会中継を行っています。ぜひ一度ご覧ください。

※お手元のパソコン及びスマートフォンから新宮町議会にアクセスしてください。議会中継・録画配信を行っています。ぜひご覧ください。

※議場での傍聴を希望される方は、当日午前9時から**役場3階 議会事務局前**で受付を行っていますので、お越しください。

※詳しくは、役場議会事務局 TEL 963-1737(直通)までお問い合わせください。

議会の傍聴にお越しください。